

第3期中期計画

【法人本部】

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子			
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 財務・運営
法人本部	<p>デジタル情報技術の高度化や急速な少子高齢化といった社会構造の変化を見据えて、こども園から大学院までを擁する総合学園としての強みを生かした良質な教育を推進する。</p> <p>学校法人常葉大学は令和8年度に創立80周年を迎える。これを機に「より高きを目指して～Learning for Life～」の建学の精神に立ち返り、先行き不透明な未来社会を生き抜く力を備えて社会に貢献する人材を育成し、「地域と連携し、教育を通して地域創生に貢献する」という使命を果たすことを目標とする。その目標を達成するために、教職員の資質向上を図るとともに、教育改革の推進や入試改革などに積極的に取り組み、堅固な経営基盤に基づく、各校の特色を生かした良質な教育（保育）の提供を持続する。</p>	<p>デジタル情報技術の高度化や急速な少子高齢化といった社会構造の変化を見据えて、こども園から大学院までを擁する総合学園としての強みを生かした良質な教育を推進する。</p>	<p>地域の人々や県・市・地域産業界との恒常的な連携・協働を推進し、地域経済・社会の発展と魅力あふれる持続的な地域づくりに貢献する。</p>	<p>少子化の進展や社会構造の変化等に伴う志願動向を着実に捉えて、入試制度を含め、募集活動の不断の点検・改善を推進する。</p>	<p>人口減少が加速する時代にあっても、社会経済の変化を見据えた長期的な展望を持って、収益の安定化と適切な財源の配分を図り、堅固な財政基盤に支えられた堅実な法人運営を行う。</p>
		<p>1) 教育研究活動への支援</p> <p>将来の予測困難な時代を生き抜く力を備えた人材育成のために、各校の中期計画に基づく学習者・学修者本位の教育活動の推進を支援する。</p>	<p>1) 学校段階に応じた地域連携活動の支援</p> <p>各校と地域がパートナーとして学生生徒等の学びを支える関係性を構築するため、各校の特色を生かした社会教育・文化・スポーツ・ボランティア等の幅広い地域連携活動の推進を支援する。</p>	<p>1) 法人内各校の定員確保に向けた取組の推進</p> <p>安定的な経営基盤を維持するため、定員確保に向けた各校との連携・協働した取組の強化、各校相互の連携・協力の取組を推進する。</p>	<p>1) 堅固な財政基盤の確立</p> <p>建学の精神に基づく教育研究活動を永続的に実施していくため、経営の効率化や収入基盤の安定性の確保を図りながら、堅固な財政基盤の確立に努める。</p>
		<p>2) スケールメリットを生かした各校の連携活動への支援</p> <p>こども園から大学院までを擁する総合学園の強みである接続性の高い良質な環境での学びを推進するため、大学と附属高校等、各学校段階を結ぶ接続教育や連携活動の強化を支援する。</p>	<p>2) 地域社会の課題解決への寄与</p> <p>地域社会・経済の更なる発展に貢献するため、教育研究活動や産官学連携活動による地域社会の課題解決や地域経済のイノベーションをもたらす活動の推進を支援する。</p>	<p>2) 入試制度及び募集活動の点検</p> <p>急速な社会構造の変化に応じた入試改革及び募集活動の推進のため、各校と連携して入試制度及び募集活動の不断の点検・改善に取り組む。</p>	<p>2) 良質な教育研究環境の維持</p> <p>教育研究活動の質の向上及び活性化を図るため、良質な教育研究環境の維持を目的とした施設設備の更新や機能強化を計画的に実施する。</p>
		<p>3) 研究成果の地域への還元促進</p> <p>地域課題の解決や地域経済の発展への貢献を促進するため、常葉大学及び常葉大学短期大学部における地域の産官学連携活動による共同研究体制を強化し、研究成果を地域に数多く還元することを促す。</p>	<p>3) 同窓会等と連携した地域貢献の促進</p> <p>地域に根差し、地域に貢献する学校としての存在感を高めるために、学校と同窓会、PTA等との連携強化を促す。</p>	<p>3) 多様なデータを活用した入試広報の強化</p> <p>効果的な入試広報施策の展開のため、志願者数、受験者数、入学者数等の時系列データや入学者へのアンケート調査など多様なデータに基づく志願校決定のプロセスや入学決定要因の分析を強化する。</p>	<p>3) 業務の適正を確保する運営管理体制の確立</p> <p>改正私立学校法が求める社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンスを実現するため、内部統制システム整備の基本方針に従った業務運営体制の確立を図る。</p>

【大学・短期大学】

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子			
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 大学・短期大学運営
常葉大学・常葉大学短期大学部	建学の精神である「より高きを目指して～Learning for Life～」及び「地域と連携し、教育を通して地域創生に貢献する」という法人の使命の下、未来の国や地域に貢献できる人材を育成する。年間2,000人規模の地域から必要とされる、産業人材やエッセンシャルワーカー等の私たちの暮らしに欠かせない人材を輩出する私立大学・短期大学として、地域社会の持続可能性を維持する役割を果たすことを目標とする。	静岡県における高等教育の機会提供の一翼を担い続け、静岡県の各地域の産業特性に合致した産官学協働の教育研究を充実させる。また、地域社会の発展や活性化に貢献する人材の育成並びに研究活動の推進によって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。	地方創生につながる活動や情報の拠点として、多様な人々が集う開かれた大学・短期大学を目指す。また、地域連携・交流に関わる諸活動を積極的にを行い、地方公共団体や企業と連携しながら地域の活性化を担う人材を育成することによって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。	時代やニーズに即した募集活動の充実に努め、大学・短期大学進学に伴う若者の県外流出を抑制し、キャンパスの所在する静岡市及び浜松市という2つの政令指定都市を中心に地域の活性化を促す。地域のにぎわいを生み出すことによって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。	認証評価の結果を踏まえ、学長のリーダーシップの下、常に教育研究活動等の質の向上・改善を推進していく。地域社会及びステークホルダー（大学・短期大学を取り巻く個人や関係する団体）からの信頼を得て、安定的な大学・短期大学の運営を行うことによって地域社会の持続可能性を維持する役割を担う。
		1) 教育に関する計画 【大学】複数分野の視点を持つ人材の育成（文理融合・学際的思考）やキャリアの柔軟性を高める教育を推進する。また、多様な学生が本学での学修に適應できるように配慮・工夫された授業の実施に努め、学修者本位の個別最適な学びを支援する。 【短期大学】専門的な知識や技術の修得に加え、幅広い教養と豊かな人間性を身につけ、社会で活躍するための実践力を養う。また、多様な学生が本学での学修に適應できるように配慮・工夫された授業の実施に努め、学修者本位の個別最適な学びを支援する。	1) 地域貢献と国際交流に関する計画 地域活性化に資する人材育成事業、地（知）の拠点事業、産官学連携事業、異文化交流事業等の地域連携・交流の機会を通じて、多様なコミュニティとのつながりを促進し、地域社会の活性化・進展に寄与する。	1) 入学者選抜と高大接続教育に関する計画 地域社会の担い手となる次世代の人材育成に貢献するべく、多面的・総合的な評価に基づく育成型の入学者選抜を実施する。また、探究学習に関する中高大連携活動の講師派遣や入学前準備教育等によって、大学・短期大学の教育研究資源を活用した中高大接続教育を推進し、法人内外の学校機関と連携した人材育成を進める。	1) 業務運営に関する計画 2つの政令指定都市の中心に複数キャンパスを有する総合大学・短期大学として、キャンパス間の連携・交流を深め、教育研究並びに学生支援における新たな相乗効果を発揮するための、柔軟で創造的な組織文化を醸成する。
		2) 学生支援に関する計画 学生の成長と社会に貢献できる自立を目標とする「主役は学生」をモットーに教職学協働を推進し、学生が主体的に学び、自ら学生生活を豊かなものにするによって学生の満足度を高め、誰もが成長を実感できる学びの場を実現する。	2) 同窓会との連携に関する計画 令和7年3月に開設した常葉大学・常葉大学短期大学部同窓会専用ホームページ及び同窓会交流サイト（Tokoha Link）を活用した同窓会活動の活性化を支援し、大学・短期大学と同窓生との連携を強化する。		2) 浜松キャンパスの移転に関する計画 「地域に根差し、次世代の若者の夢をかなえ、地域とともに新しい街を創造する」というコンセプトの下、充実した学びの場を提供する。法人が設置している浜松移転委員会及び関連部会と連携し、新キャンパスの移転準備及び新キャンパスの運営の円滑化に努める。
		3) 研究推進に関する計画 産業界、地域社会等と連携し、地域社会が求める人材の育成に通じる研究を推進し、地（知）の拠点施設として、研究成果を地域に還元する。			

【中学校・高等学校】

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子				
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 学校運営	
常業中学校・高等学校	<p>創立80年に及ぶ歴史を持つ本校は、創立当初の「美しい心情をもって人と接し、堅固な意志と健康な身体をもっていかなる苦難にも打ち克ち、より高きを目指して学び続ける人を育成する」という教育理念に立ち返り、「自ら目標を設定し、責任を持って行動する自律した生徒の育成」を目標とする。本校の使命である「社会のために働き、人のために役に立つ 豊かな人生を自らデザインし、力強く歩める生徒の育成」に取り組む。</p>	<p>すべての教育活動において、生徒及び教職員が常に問題意識を持ち、主体的に活動できる安心安全な教育環境を作る。探究的な学びを通して、学力テストなどで測定できない人間の力である「非認知能力」を高め失敗を恐れずに挑戦し続ける学校風土を作る。</p>	<p>創立80周年を迎え、一層、地域に愛され、社会に期待される学校を目指す。連携講座、探究活動、文化祭を始めとするさまざまな学校行事を地域社会に開き、地域の皆様と共に生徒の学びを深める機会とする。</p>	<p>広報課を設置し、本校の特色ある学びを広く発信する。令和8年度から開始する新たなカリキュラムや進路別の教育内容を充実させ、募集活動につながる教育改革を進める。</p>	<p>教職員がやりがいをもって働くことができるよう、人材活用を推進する。人口減少の現実と対峙しながら、健全な教育活動と堅実な財政管理を徹底する。</p>	
		<p>1) 学習指導 ICTを活用した基礎学力の徹底に加え、GCP（不確実な時代に、自分と世界の幸せのために行動を起こせる大人になるためのグローバルコンピテンシプログラム）の導入を柱に、多種多様な異なる文化や考え方を理解して尊重するグローバルマインドを育て、変わりゆく社会にどう対応していくかという受動的な姿勢ではなく、どのような社会を作り上げるかという能動的な姿勢を持った生徒を育てる。</p>	<p>4) 進路指導 令和8年度から開始する新たなカリキュラムや、2年次からの「フィールド別クラス（特進コース、看護コース（理系）、保育コース（文系））」の改革を推進し、多種多様な進路選択に応える学びが「探究×進路×教科」として有機的につながり、学びが自分事になり、生徒の進路開拓につながるよう指導する。</p>	<p>1) 保護者・卒業生・地域との連携 立地の良さを生かし、探究学習、主催者教育、連携講座、ボランティア体験などの諸活動において、地域の人たちや保護者・卒業生の力を借りながら、生徒の学びを深め、広い視野に立った進路意識を育てる。令和8年の創立80周年を契機に卒業生との絆をさらに深める機会とする。</p>	<p>1) 生徒募集 社会の動向や保護者・生徒のニーズを着実に捉え、定量的な根拠に基づく検証を行ったうえで、効果的と思われる活動は積極的に実践し、志願者の増加につなげる。在校生の活躍はイコール募集活動であり、大きな結果だけでなく、小さな活躍にも同じように目を向け、本校生徒の活気に満ちた活動を広報に生かす。</p>	<p>1) 組織の活性化 「小さな学校の大きな教育力」を発揮できるように、中堅教員や若手教員が活躍できる役割や機会を積極的に作る。コンプライアンスの意識を向上させ、全教職員が教育目標の具現化を目指して、共通の方向性を持って教育活動に取り組めるように研修を行う。</p>
		<p>2) 常業大学・常業大学短期大学部との高大接続教育 企画運営の段階から高校と大学・短期大学部と協同して実施している「連携講座」をさらに充実させ、常業大学や短期大学部への進学後もリーダー的な存在となる、学ぶ意欲の高い生徒を育てる。</p>	<p>5) 生活指導 すべての教育活動において、生徒自身が考え主体的に活動できる場を提供する。特に中高合同の行事や部活動を中学生・高校生が互いに成長できる機会とし、学校全体が「愛校心」に溢れた学校風土を醸成する。</p>			
		<p>3) 中高一貫教育 中学の探究学習「とこはの学びプロジェクト」での学びが、高校の「総合的な探究の時間」に生かされるように、成果発表の機会をより多く設け、外部への発信を推進することによって、生徒の自己肯定感の向上を図る。</p>	<p>6) 教員の教育力強化 常に時代の変化に対応し、自己研鑽を重ね成長し続ける教員であるように、校内外の研修に力を入れ、「学習する組織」を作る。「対話する職員室」であるように、普段から教員相互のコミュニケーションを大切にす。</p>			
中期計画の目標	1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動			
橋中学校・高等学校	<p>常業大学附属として、大学とともに持続可能な地域社会の実現に寄与するために、地域で活躍する有為な人材を育成する。また教育活動を通し、次世代を担う生徒たちが心身ともに豊かに成長し、社会の一員として生涯にわたって充実した人生を送ることができるような「ウェルビーイング」(身体的・精神的・社会的に満たされた幸福な状態)の実現を目指す。そのために自分自身は社会や人のためになれるという「自己効力感」、困難な状況にも耐えしなやかに乗り越えていく「回復力」、他者の感情や考え方を理解し共感する「他者理解」を涵養する仕組みを構築する。</p>	<p>生徒一人ひとりの個性と可能性を伸ばす探究的学びを推進し、地域・大学・企業との連携による実践的教育を深化させる。また、データに基づく教育改善とICTの効果的活用を進め、社会に貢献できる自立した人材の育成を目指す。</p>	<p>生徒自らが地域の課題を発見し、解決に向けて行動するための探究活動を推進する。学校独自のカリキュラムを通じて、地域に根差した学びと人づくりを実現し、地域社会に信頼される学校を目指す。</p>	<p>本校の教育理念と探究活動や地域連携、ICT教育などの特色ある学びについて、学校説明会やSNSを通じて効果的に発信することによって本校教育の特色及び魅力を伝える。日々の活動においては、生徒・保護者との信頼関係を大切にし、選ばれた学校づくりを進める。</p>	<p>教職員が協働しながら持続可能な学校づくりを進めるとともに、人事における適材適所を意識し、チーム力を高めながら教育活動の質を向上させる。また、今後の人口減少を意識した学校運営の方向性を示す。</p>	
		<p>1) 学習指導 ・「生涯にわたって学び続けられる学力」の醸成を念頭に、高校の3年間、中学高校の6年間を通じて基礎学力の定着を図る。 ・教科横断型の学習を通して、主体性を引き出す「問いを生み出す学び」の実践を目指す。 ・ICTを活用し、授業や探究活動において客観的資料に基づく検証を行い、学習指導を実践する。</p>	<p>4) 進路指導 ・生徒各自が目標とする進路を実現するため、1年次から自己理解・進路研究など段階を踏んだ進路指導に取り組む。 ・生徒・保護者に「附属高校入試」制度の理解徹底を図り、かつ進学後を見据えた学習指導を行う。 ・英数科を中心に、国公立・難関私大合格に向けた学習の仕組み作りを協働的に行う。</p>	<p>1) 保護者・卒業生・地域との連携 ・「学びの拠点としての学校」を実現するため、卒業生・PTA・地域など外部人材の専門性を活用する。 ・地域探究など外部との連携を通じ、生徒の社会貢献の意識を高め、かつ周辺地域に教育活動の理解を広げる。 ・「学校評価」の項目を再検討し、関係者からの評価も含め振り返りの点検項目として活用し、ステークホルダー(学校を取り巻く個人や関係する団体)に信頼される学校づくりを目指す。</p>	<p>1) 生徒募集 ・大学と一体となり、各地域における教育的な活動を通し「常業」への関心を高め、ファンを獲得し、中高大の募集につなげる。 ・「魅力的で効果的な募集活動」を目指し、定量的な根拠に基づく検証を定期的に行う。 ・附属3中高間で情報を共有し、効果的な募集活動につなげる。</p>	<p>1) 組織の活性化 ・校内において教職員の将来への目標設定を明確化させ、各自のキャリア観を校内人事に生かし、教員各自の「働きがい」につなげる。 ・課長・主任の役割を明確にし、ミドルアップ・ダウン型の学校運営体制の構築を図る。 ・学校運営への参画意識や人材育成の観点から、教職員からのさまざまな意見を聞き取り、ボトムアップを図る。</p>
		<p>2) 常業大学・常業大学短期大学部との高大接続教育 ・大学の理念やビジョン、活動を共有し、高大の接続を意識した取組を企画し、「常業」の連携を通して相乗効果を生み出す。 ・大学の知的資源を積極的に活用し、中高の教育活動における講演・助言・評価を依頼し、高大接続教育をより一層活用した学習活動の改善を図る。 ・本校の卒業生との接点を設け、世代の近さを生かして中高生の進路観を効果的に刺激する。</p>	<p>5) 生活指導 ・対人スキルを高める取組を実施し、他者を共感・理解する力を涵養する。 ・生徒指導の目的を明確にし、生徒・保護者との共有を図り、学びに集中できる環境を提供する。 ・避難訓練や防災教育を通じ、生徒・教員の防災への関心・スキルを高める。</p>			
		<p>3) 中高一貫教育 ・中学から高校1年生までの4年間を一貫コースと捉え、リーダーシップ・フォローシップ教育を計画し実践する。 ・中学生の生徒情報や活動情報を中高の教員間で十分に共有し、高校での指導に反映する。 ・高校における学習や進路の情報を中学生及びその保護者にも共有し、一貫校のメリットを生かす。</p>	<p>6) 教員の教育力強化 ・教科会議の役割・責任を明確にし、教科指導力向上を目的とした取組を進める。 ・教員自身の自己解決力を高められるよう、適切な報告・相談を各リーダーに対して行い、助言を受け、問題に対処する。 ・研修や日常的なコミュニケーションを通して、コンプライアンスと帰属意識を土台とした倫理観を強く意識する環境を作る。</p>			
中期計画の目標	1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 学校運営		

中期計画の目標		中期計画の骨子				
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 学校運営	
菊川中学校・高等学校	<p>新しい学力観、現代社会に求められる人材像を念頭に置いた教育を推進する。学習指導はもちろん、教職員の考え方や姿勢の変化が求められるため、研修機会を作ると同時に教職員自身も進んで自己研鑽に努める環境を作る。また浜松キャンパス移転を契機に常葉大学との「中高大連携」をさらに強化していく。</p> <p>中学からの6年間または高校の3年間を見通した教育計画のもと、「一人ひとりが光り輝く」教育の実現を目標としている。その目標を達成するために、生徒一人ひとりが社会の一員であることを自覚できる教育を目指し、学業と部活動の両立・文武両道の実践を通して生徒が抱えている夢や進路を叶える教育を行う。また、地域貢献を通じて地域に愛される学校を目指すとともに、小笠地区の私学の中で地域の子どもだちや保護者にとって真に魅力ある学校としての確固たる地位を築く。</p>	<p>新しい学力観、現代社会に求められる人材像を念頭に置いた教育を推進する。学習指導はもちろん、教職員の考え方や姿勢の変化が求められるため、研修機会を作ると同時に教職員自身も進んで自己研鑽に努める環境を作る。また浜松キャンパス移転を契機に常葉大学との「中高大連携」をさらに強化していく。</p>	<p>普通科及び中学校の探究学習「TKC (tokoha kikugawa creative)」、美術・デザイン科の「みらい学」を中心に、地域清掃や福祉事業を行っている生徒会活動、部活動単位で行っているイベント参加をからめ地域交流や地域貢献を行う。PTA活動に関しては時代に即した活動に変えていく。</p>	<p>少子化や社会構造の変化を着実に捉えて、入試制度を含め、募集活動の点検及び改善を推進する。広報課の充実を図り、SNSでの情報発信や学校案内やホームページを改編するとともに、募集イベントも回数や内容を吟味する。また保護者や卒業生の口コミが大きな影響を持つことから、日々の指導を徹底する。</p>	<p>少子化であっても現在の入学者数を維持し、安定した学校運営に努める。社会の変化や物価高騰から適切な財源の分配を検討する。また、働き方改革に伴う業務のあり方も都度検証が必要であることから、既得権や前例踏襲ではなく、将来の学校を見越した持続可能な運営のための諸規定の整備を行っていく。</p>	
		<p>1) 学習指導 ICTを活用した授業展開を増やし、講義形式だけでなくグループワークなど生徒同士が学び合う授業を積極的に行う。社会変化に伴う新しい学力観の育成に則り、知識だけでなく、思考・判断・表現力、自ら学びに向かう力を養う。</p>	<p>4) 進路指導 生徒にとっての「より高きを目指して」を念頭に、各生徒の希望の進路を叶える指導を行う。国公立大学や有名私立大学を目指す生徒、常葉大学・常葉大学短期大学部を目指す生徒など、それぞれの生徒に最適な情報を提供する機会を設ける。</p>	<p>1) 保護者・卒業生・地域との連携 PTA総会の簡素化や学校と保護者の双方に利点のある活動を模索し、保護者との新たな連携を進める。卒業生とはホームページを通じて学校の現状を積極的に発信して連携を深める。地域連携については探究活動や生徒会、部活単位で推進する。</p>	<p>1) 生徒募集 募集会議の定期開催によって、募集活動に関して常に刷新を図る。管理職に加え中堅教員や若手教員も募集事業の企画に加えることによって組織の活性化を図る。定量的な根拠に基づき本校の強みを分析して、それを生かす学校づくり、広報活動を行う。</p>	<p>1) 組織の活性化 教職員が心身の健康を保ち、業務を通じて協働性を高めることによって、より良い組織とする。教員との定期面談を実施し、個々の業務内容を適切に把握する。業務の属人化を避け、業務遂行のマニュアル化や校務分掌や所属の非固定化に留意した人事配置を行う。</p>
		<p>2) 常葉大学・常葉大学短期大学部との高大接続教育 大学・短期大学部への進学率の向上に努める。小学生や中学3年生を対象とした学校説明会から大学・短期大学部の広報を強化し、入学後は高大連携講座や「とこフェス」と名付けた本校生徒と大学・短期大学部との交流会を実施しながら学びを知る機会を与え、関心を高めるようにしていく。</p>	<p>5) 生活指導 公共マナーを重視した指導及び啓発を行う。教員の指導や校則については、社会通念上許容される範囲であるか否かを十分に検討し、柔軟な姿勢で取り組む。部活動や学校が企画するボランティア活動、体育祭などの学校行事では、可能な限り生徒の自主性を尊重し、創意を生かし、目標達成の喜びを味わえるような計画を立てる。また行事運営にあたり事故防止に最善を尽くす。</p>			
		<p>3) 中高一貫教育 中学3年次後期における高校授業の事前学習、中高の合同行事や探究の活動並びに中高大連携活動といった本校独自の中高6カ年で学ぶメリットを十分に生かし、各生徒の進路実現に向けた指導を行う。中学生の生徒情報や活動情報を全教職員で共有し、高校での指導に反映させる。</p>	<p>6) 教員の教育力強化 教員一人ひとりの授業力向上のため、教科担当者間での意見交換を促進し、私学協会や県総合教育センターで行われる研修に積極的に参加し自己研鑽を進める。授業アンケートの定期実施によって、教員自身が授業を振り返り、それに基づき授業改善を行う。校内研修を定期的に行い、コンプライアンスや学校が直面している課題の解決や組織の活性化に努める。</p>			

【小学校】

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子				
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 学校運営	
橋 小 学 校	<p>本校は令和10年度に創立50周年を迎える。法人の建学の精神「より高きを目指して～Learning for Life～」と本校創立以来の伝統である「三方よし」（自分よし・相手よし・みんなよし）の信条を教育の基軸とし、どんなに時代が変化しても自らの力で未来を切り拓くことのできる「生きる力」を育むことを目標とする。学習指導要領の趣旨を踏まえ、教育学部附属小学校として教育研究・授業改善の先駆的な役割を果たすために教育課程を組織的かつ計画的に編成し、実施状況を点検評価し、教育活動の質の向上を図っていく。</p>	<p>本校の伝統と文化を継承しつつ、常に児童の未来を見据えた上で、系列のこども園、中学校、高校、大学と連携を図りながら、特色あふれる先進的な教育を推進する。</p>	<p>保護者と教職員が本校児童のよさと課題を共有するとともに、社会に開かれた教育を実現するために、地域の方々の支援やさまざまな物的資源を積極的に活用し、児童に地域社会の重要性を感じさせる。</p>	<p>本校教育への信頼と期待とは、質の高い授業と知徳体のバランスのとれた確かな児童の成長があってこそである。そのことを念頭に置いた広報と募集活動を積極的に行い定員充足を目指す。</p>	<p>教職員が自ら学び、創造的な教育実践に挑戦できる研修体制を構築する。また、働き方改革を進め、ワークライフバランスを図りながら意欲を高める組織・運営の改善に取り組む。</p>	
		<p>1) 生きる力を身につけた児童の育成 「三方よし」（自分よし・相手よし・みんなよし）を教育の基軸とし、各教科及び特色ある教育活動における少人数指導を通して、知徳体のバランスのとれた確かな力を育む。</p>	<p>4) 幼小の連携 低学年児童と園児との交流機会を設け、園児が小学校の生活や本校の良さを実感できるようにする。幼小教職員の研修交流を継続的に実施し、幼から小への架け橋期の重要性を共に理解し、連携教育の実践につなげる。</p>	<p>1) 保護者・卒業生・地域との連携 加速度的に進展する社会の中で自らの可能性を広げ、未来を切り開く力を備えた児童を育てるために、児童に必要な資質・能力を育む教育について保護者と教職員が共に考え、共に学ぶための機会を設定する。地域素材と人材を積極的に活用し、ヒト・モノ・コトとの出会いを創出するための地域連携に取り組む。</p>	<p>1) 児童募集 全国で唯一のオーケストラ学習を始めとする本校の特色と強みを積極的かつ効果的に広報し、時代に即した戦略的な募集活動を展開する。共働き家庭の増加に呼応し、放課後児童クラブをリニューアルし、各種の習い事の機会を設けて学びの充実を図る。</p>	<p>1) 組織の活性化 教職員の職務に対する主体性を高め、個々の能力・特性を最大限に発揮できるようにするために、校内分掌組織を大胆に見直し、プロジェクト型の組織改編を行う。</p>
		<p>2) 大学との連携 教育学部附属の研究実践校として、教育学部と連携し質の高い先進的な教育実践を行い、適時、研究発表会を開催する。大学・大学院の学生の実習を次世代の教員養成と教育の質の充実と捉え活用する。</p>	<p>5) 教員の資質向上 社会の急激な変化と教育課題の複雑化、多様化に対応するためには、教育の質の向上が不可欠である。「変える・変わる」をモットーに、将来構想委員会の活用や先進校視察等を行って学校改革、授業改善を推進する。</p>			
	<p>3) 小中一貫教育の検討 小中の教育内容を再確認し、系列校ならではの特色あるプログラムを編成・実施する。児童・生徒間の交流を充実させ、系列中学校に進学する良さを児童・保護者に伝えていく。そのために、常葉大学附属中学校の教員との意見交換会などを積極的に開催する。</p>					

【こども園】

所属	中期計画の目標	中期計画の骨子				
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 募集活動	4. 園の運営	
こども園	「健康で明るい子」「適応力・協調性、思いやりのある子」「創造力豊かで意欲的な子」の育成に努め、幼保連携型認定こども園の機能を十分生かした園運営を実施する。	園児一人ひとりが豊かな体験を通じて、感じたり、考えたり、工夫したりすることによって、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力の基礎」「学びに向かう力、人間性」が育まれるような教育・保育の充実に努める。	近隣地域に積極的に関わり、住民の子育て支援も含めて地域貢献につながる活動を目指す。	少子化による乳幼児人口の減少が進む中、保護者のニーズを適切に把握し、それを募集活動につなげる。また、SNSを有効活用し、幼稚園の魅力が伝わる広報を目指す。	各職員が得意とする分野でそれぞれの力を発揮し、相互に協力することによって組織力の向上を図る。	
		1) 子どもの健康・安全の確保 園児一人ひとりが環境との関わり方や意味に気づき、それらを遊びに取り込もうとする姿が随所で見られるよう、芝生を植えたり、扱やすい教材を取り入れたりするなどして、教育・保育環境を整備する。	4) 常葉大学・常葉大学短期大学部との連携 学生が主体性をもって教育・保育実習を実践できるよう、実習担当教諭と一緒に保育を考えたり、実践を振り返ったりし、未来の保育者養成について保育学部・保育学科と協働する。	1) 地域との交流 近隣施設・商店へ出かけ、園児自身が自分たちの住んでいる地域へ親しみを持ち、地域の中の一員であることを自覚できるよう促す。また、未就園児保護者を中心に、子育て世代が気軽に集うことのできる遊びの会を企画運営する。	1) 園児募集 日頃の園児の様子がわかるよう、また、本園が大事にしている、幼児期に必要な子どもの主体性が伝わるよう、Instagramやホームページ等に定期的に写真や動画を掲載する。常葉大学附属園の強みを生かし、子どものさまざまな発達に丁寧に対応する教育・保育を前面に打ち出した募集活動を実施する。	1) 組織の活性化 各職員が十分に自己の保育・教育の技量を十分に発揮することでさまざまな対応が円滑に進むよう、他園との交流や小学校との連携、豊富な内容の研修を積み、組織力の維持向上に努める。
		2) 充実した保育・教育活動の実施 長時間保育利用園児が増加している中で、どの園児にとっても身近な環境に主体的に関わることができるよう、また遊びの中で試行錯誤したり考えたりできよう、園児とともに教育・保育環境を作り上げ、安心して遊びに没頭できる場を提供する。	5) 橘小学校との連携 一貫した子どもの育ちについて幼小教諭が共に学びを深めるとともに、保護者や関係者にも接続の大切さが伝わるよう、幼小接続研修を重ねる。			
3) 園行事の柔軟な実施 働く保護者が増加し、親子の触れ合い時間の確保が難しい中、保護者が我が子の成長や子育ての尊さを実感できる行事を積極的に企画し、実施する。その際、内容については、園児の発達年齢を十分に考慮する。	6) 職員及び職員組織の力量の向上 職員一人ひとりが必要な学びを深め、学んだことを教育・保育の場で実践し、それについて自己・他者による評価を実施することによって、質の高い教育・保育に繋げる。また、常葉大学保育学部や常葉大学短期大学部保育科の授業と連携し、日頃の教育・保育実践を振り返る機会を設け、職員自身の資質向上を図る。					
こども園	「今日から明日へつながる保育」を実践し、「明るい子」「がんばる子」「思いやりのある子」「心豊かな子」を本園の目指す子どもの姿とし、0歳児から5歳児までの発達の連続性を踏まえた意図的・計画的な教育・保育を提供する。	総合学園の認定こども園として幼稚園から大学までの連携を強みとし、良質な教育・保育活動を推進する。	地域の方々との連携や協働を推進し、子育て支援や地域社会の活性化に貢献する。	地域に開かれた園づくりを推進し、これまでの募集活動を点検・検証して効果的な広報を実施する。園の教育特色と信頼性を軸に、デジタル発信と対面の接点を併用した広報体制を構築し、多様な保護者ニーズに応える募集活動を展開する。	社会の変化に柔軟に対応しながら、教育・保育の質を確保し、持続可能な運営基盤の構築を図るため、職員の資質向上、業務の効率化を進めるとともに、地域や保護者との連携を強化する。	
		1) 子どもの健康・安全の確保 年齢発達に応じた豊かな育ちを保障するため、心身の健康を支える生活環境を整備し、ヒヤリ・ハット事例の共有と再発防止策の検討に基づいた計画的な安全教育を実施する。また、多様化する子どもの実態に応じ、一人ひとりの状況を的確に把握し、職員間での情報共有と協働を推進する。	4) 常葉大学・常葉大学短期大学部との連携 附属園として、大学・短期大学部との教育研究連携を一層推進する。これまでの学生の実習協力を基盤に、教育実践の交流を通じて、教育の質向上と保育人材育成に寄与する。また、附属各校との継続的な学びや地域への教育発信を強化し、附属園としての役割を遂行する。	1) 地域との交流 地域の子育て支援の拠点としての機能を果たすよう、未就園児が体験できる園開放や遊びの会を実施する。また、地域清掃活動や地域イベントへの参加を含め、交流を深めて連帯感を育む。	1) 園児募集 園の教育理念への理解を促し、安心して入園できる環境を伝えるために、説明会や体験会を充実させるとともに、Web・SNSなど多様な媒体を活用して園の魅力を発信する。地域の子育て世帯との接点を広げ、遊びや体験を通じて園の教育方針を実感できる機会を提供することによって、安定的な入園者の確保に努める。	1) 組織の活性化 園の教育目標「美しい心 よく動く体 豊かな感性と社会性を持った子どもの育成」を目指し、研修を重ね組織の活性化を図る。また、職員の主体的な取組を基に機能的で発展的な職員組織を構築する。
		2) 充実した保育・教育活動の実施 「今日から明日へつながる保育」を目標として、「目指す子どもの姿」の実現に向けて継続的な教育・保育を実施する。そのために、園児が遊びを通して人との関わりを広げ、生活体験を通して人間性や社会性を育てて生きる力を身に付けることを支援する。	5) 橘小学校との連携 橘小1年生と年中園児との交流会を中心に、幼小の円滑な接続を推進するための交流活動を継続的に実施する。また、教職員の連携については、相互参観のみならず、合同研修会の実施を通して、発達や学びの連続性について理解を深める。			
3) 園行事の柔軟な実施 各行事の趣旨を明確にし、子どもの発達促進、社会性の育成や伝統文化の継承、保護者との連携を図る。園児と保護者が主体的に参加し参画できる柔軟性のある行事を企画する。	6) 職員及び職員組織の力量の向上 職員一人ひとりの主体性を尊重しながら、組織全体で保育教育の質向上に取り組む。常葉大学・常葉大学短期大学部で実施されるシンポジウムにおける発表や模擬保育を参観する。また、大学及び短期大学部との協働的な連携を通して、職員の実践的知見を深めるとともに、最新の教育・保育理論や実践を共有し、専門性の高い保育者集団の形成を目指す。					

【リハビリテーション病院】

	中期計画の目標	中期計画の骨子			
		1. 教育研究活動	2. 地域貢献活動	3. 広報活動	4. 財務・運営
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	<p>本法人の附随事業である常葉大学リハビリテーション病院では、疾病の治療や二次的合併症の予防に取り組み、地域住民の健康の回復と維持を図ることによって、健康寿命の延伸に貢献する。あわせて、医療従事者を志す学生に対し、実習受け入れ施設としての役割を果たし、教育と臨床の双方から社会に寄与する。</p>	<p>養成校の学生に加え、中学生・高校生にも病院見学や職場体験の機会を設け、教育活動を推進する。また、医療従事者の研究活動として学会発表を行い、その成果を臨床教育の質向上に役立てる。</p>	<p>地域住民とのつながりを大切にし、身近にできる健康支援や交流を通じて地域に貢献する。段階的に活動の幅を広げ、将来的には予防啓発や健康づくりにも発展させ、地域に信頼される医療機関を目指す。</p>	<p>回復期リハビリテーション病棟の専門性を生かし、施設基準の見直しやホームページの更新を通じて自院の役割を発信し、適切な患者が安心して利用できる体制を整える。中長期的には、紹介元医療機関や地域との連携を強化し、安定的な患者受け入れ基盤を構築する。</p>	<p>診療報酬・介護報酬の改定に応じた適正な収入管理と、法定価格内での効率的な医療提供を行う。施設移転から10年以上が経過していることを踏まえ、修繕・更新計画を中長期的に実施し、安定した医療サービスの提供と教育・臨床両面での社会貢献を進める。</p>
		<p>1) 医療従事者等養成校との連携</p> <p>医療従事者養成校と連携し、学生に臨床の学びを提供することによって人材育成に貢献する。教育機関との協働を通じて地域医療の質向上を図り、教育と臨床の好循環を生み出す体制を整備する。</p>	<p>1) 地域の医療への貢献</p> <p>発症後の機能回復と生活再建を支援し、患者が地域で安心して暮らせるように、回復期リハビリテーションに特化した医療機関としての役割を果たす。 地域の医療機関や介護事業所と連携し、入院患者の円滑な在宅復帰と生活の質の向上を目指す。</p>		<p>1) 安定した医療収入の確保</p> <p>回復期リハビリテーション病棟では、地域住民や急性期病院から選ばれる病棟を目指し、退院後の外来や通所型リハビリテーションとの連携を強化することによって、安定した医療収入を確保し、病棟運営と医療・教育研究活動の質向上に寄与する。</p>
					<p>2) 安全で適正な医療提供体制の構築</p> <p>リスクマネジメント体制を整え、職員教育を通じて安全意識と対応力を高める。インシデントの報告・分析を随時行い、手順を整理・共有することによって現場で安定した医療を提供する。</p>
					<p>3) 回復期リハビリテーション病棟としての施設・設備の整備</p> <p>患者の移動や生活動作を支援する機器の導入及び建物の修繕を計画的に進め、院内外でのリハビリテーションに対応できる体制を整える。また、電子カルテの導入及び活用など、情報管理環境の整備にも取り組む。</p>

第3期中期計画

<令和8年度～令和12年度>

発行者/学校法人常葉大学
静岡市駿河区弥生町6番1号

2025.04.01